



ミンガラバ

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: http://www.mjcp.or.jp



抵抗のバリケード

クーデターに抗議する人々は、軍や警察の侵入を阻止するため、各地にバリケードを設け、抵抗した=ヤンゴン

クーデター4カ月

協会 岡田 茂理事長

深刻な人道問題 心に寄り添おう

2月1日に起きたミャンマー国軍のクーデターから4カ月。深まる混乱に皆さまもさぞ心を痛めておられることと思います。協会にとってもコロナ禍が収束したら、という気持ちで色々な準備をしてきただけに、大変な痛手です。国軍のトップは昨年11月のNLD(国民民主連盟)が圧勝した総選挙について「1千万票以上の多重投票があるなど選挙人名簿に不正があったので、2008年の憲法に従った行動をとっている」と言っています。しかし、過去2

回の国政選挙では、2度とも選挙人名簿の問題は取りざたされています。日本政府も選挙は公正に行われたと発表しています。一方、この選挙をめぐる、残念なことがあったのも確かです。治安上の理由で選挙が中止になっていたラカイン州の幾つかの郡区において、国軍と紛争を続けていた少数民族武装勢力アラカン軍との間の停戦が、日本政府が派遣した選挙監視団の仲介で実現、この地域での選挙の実施に合意したのです。しかし、選挙

を管理するNLDがこれに同意しませんでした。この追加選挙に向けての話し合いが進んでおれば或いはクーデターは防げたのかな、との思いは残ります。それにしてもクーデターを

留学生の間に家族背景の影

私たちの協会は「医療を通じて安心・安全な生活を」を根本におき、政治と宗教には一切関わりたくないことを常々から活動の方針にしています。しかし、私はこの4カ月のミャンマーの動きを見て、これは政治の問題というより、今や深刻な人道的な問題である、と考えるに至りました。同時に、私にできることは残念なことにはほとんど皆無に

近い、という実情にも気づかれました。岡山で学ぶミャンマー留学生の間には、近親者が危険を冒して抵抗活動をしたり、中には逮捕されたりした人がいる一方、近親者が軍人という人もいます。仲が良かった留学生同士でも、異なる家族背景が彼らの関係に心ならずも忍び寄っているのです。このような状況を見て私にはなす術がありません。国軍は2年以内に総選挙を行うと明言していますが、これにはNLDは含まれないと報道されています。このことから国軍が第3次軍事政権を進めようとしていることは明らかです。今の混乱状態が続くとミャンマーの教育・経済・保健状

態は30年前の「破綻国家」に戻ってしまいます。内戦でも起これば、その惨禍は目も当てられない状況になるでしょう。日本はミャンマーに対し、最大のODA(途上国援助)支援国です。今こそ日本政府は声をあげる時と考えます。ミャンマー国軍に対しては暴力の即時停止は当然のことです。民主主義を望むミャンマー国民の意思を尊重し、現在拘束している人たちの即時釈放、不服従運動参加の公務員への圧力の停止などをもっと強く求めるべきです。日本はミャンマーから最も信頼されてきた国です。私たちはミャンマーの人々に寄り添い、その心を決して裏切つてはなりません。

困窮留学生ら支援へ

協会 理事会で決定

ミャンマーの窮状に、協会として何をすべきか。4月29日、岡山市の岡山プラザホテルで理事懇談会を開いた。出席者はコロナ感染防止のため少人数に限ったので、この討議をもとに5月17日、メールとファックスによる臨時理事会を開催し、岡山などで勉強している医療関係のミャンマー留学生や研修生の支援などを決めた。コロナ禍とクーデターで、

協会が取り組んできた様々な事業はできないまま、再開の見通しが立っていないのが現状。故田中茂理事長からの寄付5千万円をもとにしたミャンマーの医療系学生への奨学金支給とMAJA(ミャンマー元留学生協会)の新築ビルへのホール寄贈という新しい事業もストップしている。田中基金について「状況の好転を待って計画を進める」ことになったが、「好転の兆しが見えなければ早めに

白紙に戻し、そのために別の用途を考えておくべきだ」との意見も出た。国軍の弾圧によってきびしい生活を強いられるミャンマー国民への支援策についても協議。クラウドファンディングを行ったが、現地での支援活動を行ったりしている団体はあるが、現金や物資がどのような手段でどのような人々に届いているか、の情報が乏しく、協会としては日本国内で勉強、生活しているミャンマー人を支援することにし、次のような具体策をまとめた。

- ① 岡山などに滞在するミャンマー医療人の中に、仕送りなどが途絶えて困窮している人があれば滞在費用などを支給。
- ② 医療とは別の分野での滞在者が介護や看護に関心を持って、奨学金を用意して専門学校での勉学に便宜をはかる。
- ③ 在日ミャンマー人がどんな支援を求めているか話を聞く。

協会からのお知らせ

総会、今年もはがき開催
例年、7月末か8月初めに開く協会の総会は新型コロナウイルスの感染拡大で、昨年に続いて今年も会合は中止します。議案については後日、全会員に往復はがきを出して賛否を聞きまますのでご協力ください。

議案は2020年度(2020年7月〜21年6月)と事業内容と決算、21年度(21年7月〜22年6月)の事業計画と予算。

20年度はコロナに加えてクーデターの影響でほとんど活動できませんでした。21年度も状況は極めてきびしくありますが、情勢好転を前提に事業を計画し、予算化します。

不服従運動は医療従事者から始まった

ヤンゴン在住
笠井裕一・協会理事
(元三重大学教授=脊椎外科)

2月1日にミャンマー国軍がクーデターで国の実権を掌握しました。翌2日に医療公務員たちは、クーデターによる違法で非民主的な軍事政権からの職務命令には従えないとし、デモやストライキなどの平和的手段で反対意思を示していくと表明しました。

この職場を放棄する「市民不服従運動(CDM)」は、医療従事者から始まり、鉄道や教育機関、金融機関、さらに多くの若者にも広がっていきました。現在、CDMは2022年のノーベル平和賞候補としてノミネートされています。

ジレンマの医師たち

ヤンゴン総合病院などの公立病院は、ほぼ完全に閉まり、医師、看護師らは病院で働くことができなくな

り、2月以降の給料はゼロになってしまいました。ほとんどの検査技師が働けないため、新型コロナウイルス検査数はクーデター前の1日当たり1万5千〜2万件強から2月以降は10分の1程度に減少。国内累計感染者数が14万人を超えている中で、新規感染の動向を把握することが難しい状況です。

軍・警察は職場への復帰を強く求めています。医師たちは全く応じていない。「かつての軍事政権下(1962〜2011年)で、国の発展のみならず、医療の発展が大きく遅れた」

「職場放棄する以外に対抗できる方策はなく、われわれは命がけだ」「クーデターを黙って見過ごせば、ミャンマーの未来や自分の子供たちに希望はない」と言っています。私は彼らと会話をしている中で、彼らの強い信念や誇り高い愛国心を感じました。

病院長ら拘束される

3月に入ると軍・警察がデモの取り締まりを強化し、多くの一般市民が命を落としました。私のコンドミニアムの周囲では、毎日銃声が響き渡り、私自身も催涙ガスを2度ほど浴びました。デモ隊は軍・警察の侵入を阻止するためのバリケードをあちこちに作り、

一般市民が全く外に出られない時期が2〜3週間くらい続きました。4月には大規模なデモはほぼ行われなくなり、軍・警察は、デモを先導した首謀者、軍事政権を批判した有名人(タレントや女優)、病院を開けない病院長など

を次々と拘束、4月下旬の時点で、おそらく100人以上の医師が拘束され、150名程度の医師に対して逮捕状が出されています。とにかくCDMが始まってから、社会的地位の高い大学教授や病院長などは軍・警察から病院に戻れと言われる一方で、CDMを強く指示されているので、シエラター(どんな場所か想像が付きませんが)などに身を潜めています。若い医師や看護師の中には、給料ゼロでは困るので本当は働きたいけれど、上司からCDMだから働くなと言われる、というような状況が続いてきました。

今、公立病院は診療の一部を再開していますが、私としては、コロナ感染や外傷患者など、医療は待つてくれないので、なるべく早く、医師が地に足をつけた医療ができ、患者さんが安心して治療を受けられるような環境に戻って欲しいと願っています。

パダウの花のように

ミャンマーの4月(正月)といえば、水かけ祭りと良い匂いがする黄色のパダウの花です。この花は一気に咲いて、一気に散りま



① 閉鎖され、人影がないヤンゴン総合病院。ヤンゴンクーデター下の春。パダウの黄色の花はいつものように咲いた。

日本の大学で学ぶミャンマーからの留学生Aさんに、クーデター下の祖国への思いと日本への期待を、匿名条件下に率直に書いてもらった。

私たちを助けてください

留学生Aさん

私はミャンマーでは得られない知識とトレーニングを受けるため日本で勉強中です。私の国は発展途上ですが、アウンサンスーチーさんが率いるNLD(国民民主連盟)が2015年の選挙に勝利してから教育、経済、保健など沢山の分野で発展してきました。

19年の選挙では、投票日に友人たちがSNSに小指にインクを付けている写真を載せていました。これは二重投票を防止するため



投票済みを示す小指のインク

元協会監事

森昭胤さん死去

協会の元監事で岡山大学名誉教授(神経情報学)の森昭胤さんが4月27日に亡くなった。92歳だった。

森さんは協会発足の2006年3月から09年6月まで監事を務めた。

市民不服従運動(CDM)が始まり、多くの先生は学校に行くのをやめ、医者や病院に行かず、銀行家は銀行業務をしません。国軍クーデターと戦うためです。軍政府はCDM参加者を告発し、参加した公務員ら多くの人がそれぞれの家に住むことができず、逮捕を逃れるために身を隠しています。

嬉しいことは、選挙で当選したNLD議員らが結集して国家統政府(NUG)を立ち上げたことです。このNUGが正式な政府として全世界に受け入れられることを希望しています。そして、自由と民主主義が一刻も早く回復することを祈っています。

日本政府や日本人たちはこれまでもミャンマーのインフラ、経済活動、さらに民主化への道筋をつけることの手助けをしてください、大変感謝します。私は日本がこれまで通り、ミャンマーを助けてくださると信じています。私たちが助けてください。

ギクッとさせられる数字を目にしました。ミャンマーではコロナと政治混乱で、来年初めまでに人口のほぼ半分の2500万人が貧困状態に陥る可能性がある、という国連開発計画(UNDP)の報告です。▼クーデターで実権を握った国軍は、抗議する市民への弾圧をますます強めています。一方、民主派勢力が樹立した「統一政府」は独自の国民防衛隊を設立し、少数民族の舞踏組織に連携を呼びかけています。▼双方が衝突すれば内戦を誘発しかねません。そう思うと、冒頭の数字が現実味を帯びてきて、暗たんたる気味になります。

(西崎)

編集後記

ギクッとさせられる数字を目にしました。ミャンマーではコロナと政治混乱で、来年初めまでに人口のほぼ半分の2500万人が貧困状態に陥る可能性がある、という国連開発計画(UNDP)の報告です。▼クーデターで実権を握った国軍は、抗議する市民への弾圧をますます強めています。一方、民主派勢力が樹立した「統一政府」は独自の国民防衛隊を設立し、少数民族の舞踏組織に連携を呼びかけています。▼双方が衝突すれば内戦を誘発しかねません。そう思うと、冒頭の数字が現実味を帯びてきて、暗たんたる気味になります。

(西崎)